



# ショートコメント

★★★

Data 2022-91

## グレイマン

2022年/アメリカ映画  
配給: Netflix/129分

2022 (令和4) 年7月30日鑑賞

シネ・リーブル梅田

監督: アンソニー・ルツォ、  
ジョー・ルツォ  
出演: ライアン・ゴズリング  
/クリス・エヴァンス  
/アナ・デ・アルマス  
/ジェシカ・ヘンウィック  
/レジェ=ジン  
ン・ペイジ/ワグネル・モウラ

### みどころ

肉弾戦、銃撃戦、カーチェイスを“売り”にする映画は多いが、2億ドルというNetflix史上最高額の製作費を投入した本作は、“規格外のスパイアクション映画”が売り！

たしかに、“三点セット”のアクションはすごい。しかし、“目にも留まらない早ワザ”とか“瞬き禁止のアクション”と言われても、動体視力の衰えた私には、その魅力はイマイチ・・・。

さらに、映画の命は脚本だが、そもそもグレイマン(=その正体を知る者がいない男) = CIAの隋一の優秀な工員という設定は、それ自体にどこか矛盾があるのでは・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

◆Netflix 史上最高額の製作費2億ドルで完成させた“規格外のスパイアクション映画”たる本作の主人公は、CIA 随一の優秀な工員コート・ジェントリー (ライアン・ゴズリング)。彼が“グレイマン”と呼ばれているのは、その正体を誰も知る者がいないためだが、そもそも、そんな設定に現実味が・・・？

本作のストーリーは単純明快。ある日、コートが超重要機密を知ってしまったことで、元同僚のロイド・ハンセン (クリス・エヴァンス) から執拗に命を狙われるというものだが、それもあまり現実味なし・・・？肉弾戦、銃撃戦、カーチェイス等々のド派手なアクションの他、華々しい(?) 知能戦を戦わせるのは、この2人の敵対する主人公だが、ダニ・ミランダ (アナ・デ・アルマス)、スザンヌ・ブリューワー (ジェシカ・ヘンウィック) 等の美女も彩りよく登場するので、アクション以外にも期待！

◆Netflix が2億ドルもかけた本作だが、スパイアクション映画らしく、スクリーンは絵じて暗い。それを見ると、製作費の大半が爆破シーンやカーチェイスに使われていることがわかる。しかし、全編を通じてこの暗いトーンでは嫌になってくる。また残念ながら、本

作では俳優の名前と顔が一致していないので、どこで、誰が、何のために、何をしている（戦っているのか）のかが、よくわからない。また、舞台もあちこちと移動するが、全体としてのストーリー構成が今イチ飲み込めない。そのうえ、本作の命綱（持ち味）とも言うべきスピーディーなアクションに私のいわゆる“動体視力”がついていけないこともあって、全然ワクワク、ドキドキしてこない。そもそも、1人のスパイを殺すのにあんなに大規模な銃撃戦が必要なの？ド派手なカーチェイスも面白いと言えば面白いが、バカげているといえばバカげているようにも・・・。

◆本作については、ネット上で絶賛され、「さらに映像には、先の全く読めない展開に加えて、激しい肉弾戦や銃撃戦、目にもとまらぬ速さで巻き起こるカーチェイスなど、豪華キャスト達が繰り広げる息つく間もない壮絶なアクションシーンも満載。奇襲により街中で突如始まる銃撃戦や、屈強な男たちとの肉弾戦、壮絶な大爆発など、超絶スケールで繰り上げられるダイナミックな映像は瞬き禁止シーンの連発だ。」と解説されている。まさしく、そのとおり。とりわけ、ピタリくるのは、“瞬き禁止シーンの連発”ということだが、73歳の爺さんの目にはやっぱりこんな映画は、ノーサンキュー・・・。

2022（令和4）年8月2日記